

令和5年12月八戸市議会定例会一般質問(教育委員会事務局分)

(12月11日、12日、13日、14日 4日間)

○12月11日(月)

会派・議員名	発言事項	発言の要旨	担当課	頁
自由民主・無所属クラブ 森園 秀一	2 学びの多様化について	(1) 不登校の実態について	教育指導課	1
		(2) 不登校特例校等についての教育長の所見について	教育指導課	2
きずなクラブ 吉田 洸龍	1 教育福祉行政について	発達障がい児への支援について		
		イ 通級指導教室について		
	2 教育行政について	八戸市の奨学金支援について		
		ア 現状の支援と課題について		
	イ 今後の見通しについて	学校教育課	5	
自由民主・無所属クラブ 上条 幸哉	2 教育行政について	(1) 郷土愛を育む教育について	教育指導課	7
		(2) 偉人の生き方を学ぶ道徳副教材について	教育指導課	8

○12月12日(火)

会派・議員名	発言事項	発言の要旨	担当課	頁
自民クラブ 長谷川 ひろゆき	1 教育行政について	(1) 中学校の柔剣道場の設置状況と学校としての利用状況について	教育総務課	9
		(2) 一般利用を含めた現在の柔剣道場の利用状況と今後の利用促進について	教育総務課	10
		(3) 中学校における定期テスト以外のテスト実施とその目的について	教育指導課	11
		(4) 民間の実力テストへの補助金交付について	教育指導課	12
自由民主・無所属クラブ 豊田 美好	3 三社大祭について	三社大祭の在り方、見直しについて	観光課 社会教育課	13

○12月13日(水)

会派・議員名	発言事項	発言の要旨	担当課	頁
無所属 苦米地 あつ子	2 日本語教育支援事業について	現状と支援員等の増員について	学校教育課	14
きずなクラブ 石橋 充志	2 防災行政について	地域防災について		
		ウ 避難所運営について		
		オ 中学生の防災教育について	教育指導課	17
きずなクラブ 田名部 裕美	1 子どもファーストについて	(3) ラーケーションの導入について	学校教育課	18

○12月14日(木)

会派・議員名	発言事項	発言の要旨	担当課	頁
公明党 土嶺 直樹	2 教育行政について	(1) こども支援センターにおける不登校の児童生徒の保護者の相談状況について	こども支援センター	19
		(2) デジタル採点システムについて	総合教育センター	21

質問者(議員名)	森園 秀一 議員
発言事項	2 学びの多様化について
発言の要旨	(1)不登校の実態について
質問内容	当市の不登校の実態と、推移、こども支援センター内適応指導教室への通室状況について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、本市における年間30日以上欠席した不登校児童生徒数は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は351人 ・3年度は421人 ・4年度は479人 <p>と増加傾向にあり、全国と同様の状況になっている。</p> <p>不登校児童生徒のうち、こども支援センター内適応指導教室に通室している児童生徒は1割未満となっており、残りの9割の不登校児童生徒は、在籍する学校において支援を行っている。</p> <p>また、同センターにおける不登校を主訴とする相談者数は、10月末現在で小学生50人、中学生85人の計135人であり、相談内容も多岐にわたり、延べ1,345件の相談に対応している。</p> <p>各学校では、教室以外の校内適応指導教室や保健室等を利用して、不登校児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習や生活ができるよう、一人一人に応じた多様な支援に努めているところである。</p> <p>また、1人1台端末を活用して、教室からオンライン配信された授業に教室以外の別室や自宅から参加し、学習を進めたり、オンライン上で学級担任や友達と交流したりするなどして、登校できるようになった児童生徒もいる。</p> <p>一方で、全国的に学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない児童生徒が過去最多の状況となっており、本市においても同様のケースがあると認識している。</p>
担当課	教育指導課

再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	森園 秀一 議員
発言事項	2 学びの多様化について
発言の要旨	(2)不登校特例校等についての教育長の所見について
質問内容	当市における「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校や民間のフリースクール等について教育長の認識を伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>文部科学省では、平成29年3月、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」いわゆる「教育機会確保法」を策定し、不登校児童生徒がフリースクール等で多様な学習活動を行うことなどについて基本方針を示している。</p> <p>また、令和5年3月、文部科学省は、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策として「COCOLOプラン」を策定し、「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校の設置促進など、不登校対策の一層の充実に取り組むこととしている。</p> <p>さらに、同プランでは「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒の才能や能力に応じて、それぞれの可能性を伸ばせるよう、本人の希望を尊重した上で、様々な関係機関を活用し社会的自立への支援を行うことの重要性も示している。</p> <p>このことから、学校と家庭が、民間のフリースクールや「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校を含めた関係機関と積極的に連携し、不登校児童生徒が学びたいと思った時に学べる環境を整え、学校以外に第二の居場所をつくることは大変重要であると認識している。</p> <p>市教育委員会としては、文部科学省が今月開催する「学びの多様化学校」に関するフォーラムや他都市の取組事例等を参考にしながら、今後、不登校児童生徒一人一人のニーズに応じた多様な学びの場の確保について、小・中学校長会とも連携を図り、検討していく。</p>
担当課	教育指導課

再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	吉田 洸龍 議員
発言事項	1 教育福祉行政について
発言の要旨	発達障がい児への支援について イ 通級指導教室について
質問内容	通級指導教室の現状、課題、今後の展望について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>通級による指導は、通常の学級での学習や生活におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする児童生徒に対して、各教科等の授業は通常の学級で行いつつ、障がいに応じた特別な指導を「通級特別教室」で行う指導形態である。</p> <p>本市では、通級指導と判断された児童 186 人、生徒 50 人に対し、発音の誤り・吃音・コミュニケーション等の指導を行っている。</p> <p>多数の児童生徒が通級による指導を必要としているが、加配教員の配置基準は児童生徒 13 人に 1 人であるため、本市では専門的な指導ができる教員を複数配置可能な拠点校方式を取り入れている。</p> <p>具体的には、小学校は市内を 3 つの通級範囲に分割した拠点校に県教育委員会が 14 人の加配教員を配置し、中学校では小学校との接続の関係から 2 つの通級範囲に分割し、加配教員 4 人を拠点校に配置している。</p> <p>課題としては、学校現場からニーズに応じた教材選びや準備に時間がかかること、他校通級利用者本人・保護者の移動の際の負担が挙げられている。</p> <p>このことから、学習教材の精選・準備等に費やす時間の削減と指導の充実を図るため、昨年度教員用タブレット端末を導入したところである。</p> <p>また、今年度は試行的に湊中学校において巡回指導を導入しており、生徒及び保護者の負担軽減を図ったところである。</p> <p>今後は、小学校においても巡回指導を検討してまいりたいと考えております。</p> <p>来年度、児童生徒は今年度よりも増加する見込みとなっており、拠点校の中には加配教員の確保のため特別加配の配置を要望している学校があります。</p> <p>市教育委員会といたしましては、県に対し加配教員の増員を強く要望しているところである。</p>
担当課	学校教育課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	通級指導教室を分散させることについて教育長の所見を伺いたい
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>拠点校の分散は児童生徒や保護者の負担軽減の観点からは有意義な視点であるが、分散させた場合、国の配置基準により、教員数が減員され、拠点校の教員の負担が今以上に過重となることが想定される。</p> <p>本市ではこれまでどおり拠点校方式を継続しながら、個別の事案への対応については、巡回指導による指導を拡充できないか、今後検討していく。</p>

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	通級指導教室の分散を検討してほしい。

質問者(議員名)	吉田 洸龍 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	八戸市の奨学金支援について ア 現状の支援と課題について
質問内容	八戸市の奨学金支援の現状と課題について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>八戸市奨学金制度は、本市出身の優秀な学生及び生徒で経済的理由により修学困難な者に対し学資を貸与・給付する制度で、八戸市学生寮跡地等の土地貸付収入、寄附金及び奨学金の償還金を積み立てて造成した「奨学ゆめ基金」を財源に実施しているものである。</p> <p>昭和30年度に創設した同制度は、当初は貸与型の奨学金のみであったが、平成23年度には償還免除型の「第1種特別奨学金」を、また、平成27年度には給付型の「第2種特別奨学金」を新たに創設した。</p> <p>制度創設以降、これまでに約3,500人の学生及び生徒に対し学資を貸与・給付し、高い進学意欲があれば家庭の経済状況に関わりなく進学できる機会を提供してきており、本市出身者の人材育成や保護者の経済的負担の軽減に大きな役割を果たしてきた。</p> <p>一方で、課題としては、給付型の「第2種特別奨学金」において、大学への進学を希望する人の応募人数が募集人数を大きく上回る状況が続いており、ニーズに十分応えられていないことが挙げられる。</p>
担当課	学校教育課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	吉田 洸龍 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	八戸市の奨学金支援について イ 今後の見通しについて
質問内容	八戸市奨学金の今後の見通しについて伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>当市の給付型奨学金である「第2種特別奨学金」は、返済の必要がない奨学金制度であり、国が制度を創設する前の平成27年度に本市が独自に制度化したもので、</p> <p>高校卒は月額2万円、3年間で72万円、 大学卒は月額4万円、4年間で192万円、 の奨学金を受給できるものである。</p> <p>この奨学金は、県内はもとより、全国の中核市と比較しても、給付金額、募集人数等、総合的な充実度において高い水準にあると認識している。</p> <p>しかしながら、先ほども答弁申し上げたとおり、特に大学卒の募集人数が十分ニーズを満たしたものとなっていない。</p> <p>このことから、市教育委員会としては、本年9月定例会で岡田議員の「八戸市奨学金について」の御質問への答弁で申し上げたとおり、返済の心配がない給付型奨学金を一人でも多く受けられるよう令和6年度からの募集人員拡充に向けて検討しているところである。</p>
担当課	学校教育課（再質問 産業労政課）



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	市として、若者の定住促進、雇用促進の観点から、民間企業と連携して奨学金の返還支援を行う考えはないか伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>青森県では、令和4年度から若者の県内定着・還流の促進及び産業人財の確保を目的として、県内に定着する若者の奨学金の返還を支援する「あおり若者定着奨学金返還支援制度」を実施している。</p> <p>県によると、この制度に参画し、令和6年度に返還支援を予定している企業数は、令和5年12月5日時点で134社となっており、うち本市は最も多い39社となっている。</p> <p>議員提案の本市による民間企業と連携した奨学金の返還支援については、企業との費用負担の割合や県による支援制度との役割分担など、検討すべき課題があることから、現在、参画している市内企業の意見等も参考にしながら、適切に判断していく。</p>

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	<p>現在検討中の給付型奨学金の拡充に係る検討を速やかに進めるのと同時に、八戸市奨学金の要件緩和や中間層も受けられる奨学金制度の創設を検討してほしい。</p> <p>県で令和4年度から実施している制度との調和を図りながら、八戸市独自の返還支援制度の創設を検討してほしい。</p>

質問者(議員名)	上条 幸哉 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	(1)郷土愛を育む教育について
質問内容	郷土愛を育む教育について、現在の取組と考えを伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>市教育委員会では、教育の目指す方向性を示すため、八戸市教育振興基本計画を策定しており、その中で「夢はぐくむ ふれあいの教育 八戸」を基本理念に掲げている</p> <p>この基本理念の実現に向けて「郷土を愛し、郷土とともに生きる教育」を目指し、市立小・中学校では、地域の教材や人材を活用した学習を導入している。</p> <p>具体的には、小学校では、三社大祭、えんぶり、神楽といった祭りや伝統芸能を体験したり、大館地区において地域にゆかりのある歴史看板を設置したりするなど、地域について学ぶ活動を取り入れている。</p> <p>また、中学校では、地域企業を訪問しての職場体験や地域の清掃活動に加え、根城地区や白銀南地区において連合町内会が学校と連携して行う防災訓練など、生徒が地域づくりに参加する活動を行っている。</p> <p>子どもたちは、地域の文化や歴史を学び、地域に暮らす方々と触れ合うことで、郷土に対する誇りや愛着、そして地域に主体的に関わろうとする態度が育まれている。</p> <p>市教育委員会としては、令和6年度より「コミュニティ・スクール」を導入し、学校と地域・家庭が連携した取組の支援を通して、子どもたちの郷土愛を育む教育を一層推進していく。</p>
担当課	教育指導課

再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	上条 幸哉 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	(2)偉人の生き方を学ぶ道徳副教材について
質問内容	偉人の生き方を学ぶ道徳教育の現在の取組について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校の道徳科の教科書では、野口英世、杉原千畝、マザー・テレサ、本県出身の三浦雄一郎などの偉人について取り扱い、生き方や考え方に触れることで、道徳的価値の理解を深めている。 ○ 道徳科以外にも、小・中学校の社会科の授業では、教科書に加えて、当市の社会科教育研究会が作成した副読本を使用しており、その中で、安藤昌益や西有穆山、羽仁もと子などといった、八戸にゆかりのある偉人の功績について紹介し、地域の発展に尽くした先人たちの努力や働きについても学習している。 ○ さらに、各学校の学校図書館では、日本や世界の偉人の伝記を数多く紹介するなど、児童生徒の読書環境も整備している。 ○ このように、先人や偉人たちの生き方や考え方に触れることは、児童生徒が勇気や希望をもって生きることにつながり、教育的意義が大きいものであると考える。 ○ 市教育委員会では、「夢はぐくむ ふれあいの教育 八戸」という基本理念の下、今後も「自ら学び、心身ともに豊かに生きる教育」、そして「郷土を愛し、郷土とともに生きる教育」を目指していく。
担当課	教育指導課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市立全小・中学校への道徳副教材の採用について、考えを伺いたい。 ○ 教育長がこれまで影響を受けた人物について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳科で偉人の生き方について触れることの教育的価値は認識している。 ○ 市立全小・中学校への副教材の採用については、研究を続けていく。 ○ 今の自分があるのは、これまでたくさんの方々を支えられ、教え導いていただいたお陰であると感じている。 ○ 特に、父親の影響は大きいと感じている。 ○ 子どもたちにも、様々な人との出会いを大切に、夢に向かってたくましく歩んでほしいと願っている。

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	長谷川 ひろゆき 議員
発言事項	1 教育行政について
発言の要旨	(1)中学校の柔剣道場の設置状況と学校としての利用状況について
質問内容	中学校の柔剣道場の設置状況と学校としての利用状況について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>八戸市内の中学校 24 校のうち、柔剣道場を有している学校は 14 校ある。</p> <p>14 校全てにおいて、保健体育の授業で行う柔道又は剣道で使用するほか、学年集会や文化祭、体育祭などの学校行事に向けた準備や練習に使用している。</p> <p>さらには、部活動の練習場所にも活用している。</p>
担当課	教育総務課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	<p>授業や学校行事、部活動と有効に活用されているため、今後も継続していただきたい。</p> <p>部活動の地域移行完了まで数年かかるため、部員が少ない、指導者がいないなどの理由により、過渡期にある生徒が武道をあきらめることがないよう、各スポーツ協会等と協力し、部活動の機会を確保していただきたい。</p>

質問者(議員名)	長谷川 ひろゆき 議員
発言事項	1 教育行政について
発言の要旨	(2)一般利用を含めた現在の柔剣道場の利用状況と今後の利用促進について
質問内容	一般利用を含めた現在の柔剣道場の利用状況と今後の利用促進について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>学校施設の一般利用については、教育活動に支障のない範囲で、地域住民のスポーツ・レクリエーション及び学習文化活動のために学校施設を開放し、地域住民が気軽に学べる環境づくりと地域に開かれた学校づくりに資することを目的に、体育館や校庭だけでなく、校舎、柔剣道場も対象として、学校施設開放事業を行っており、柔剣道場のある14校も含まれている。</p> <p>現在この14校のうち5校において、10団体が登録している状況であり、活動内容としましては、「柔道」「剣道」「なぎなた」「合気道」のほか、コーラスの練習等に利用されている。</p> <p>今後の利用促進につきましては、各学校に設置している、学校施設開放事業運営協議会と協議しながらホームページ等で周知を図り、利用促進に取り組んでいく。</p>
担当課	教育総務課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	柔剣道場が施設開放の対象であることの認知が高くないため、学校施設開放事業運営協議会と連携を密にし、ホームページや学校通信等を利用して周知及び利用促進していただきたい。

質問者(議員名)	長谷川 ひろゆき 議員
発言事項	1 教育行政について
発言の要旨	(3)中学校における定期テスト以外のテスト実施とその目的について
質問内容	現在、市内の中学校において、定期テストの他にどのようなテストが行われているのか。また、その主たる目的は何かについて伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>市立中学校では、定期テストの他に、全学年を対象とした市学力実態調査や、3年生を対象とした全国学力・学習状況調査、そして2年生を対象とした県学習状況調査を毎年度実施している。</p> <p>それぞれの調査は、学力の実態を把握し、各学校において指導方法や指導計画等の改善に活用されるとともに、生徒自らの学習改善に生かされている。</p> <p>さらに、学校によっては基礎学力コンテストや確認テストを行い、生徒の学習意欲の向上を図っている。</p> <p>これらに加えて実施している実力テストは、業者が作成した問題を使用し、1年生及び2年生で年間2回、3年生で5回または6回行っている。</p> <p>範囲を定めて出題する学校の定期テストと違い、実力テストは出題範囲が広いので、高校入試を見据えた生徒の学習改善に活用されている。</p>
担当課	教育指導課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	長谷川 ひろゆき 議員
発言事項	1 教育行政について
発言の要旨	(4)民間の実力テストへの補助金交付について
質問内容	民間の実力テスト受験に補助金を交付することについて、市教育委員会としてどのような見解か伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>市教育委員会では、市学力実態調査を毎年度4月に実施しており、生徒は返却された個人票から、各教科の得意分野、不得意分野、及び具体的な学習方法を把握することができ、学習改善に活用している。</p> <p>民間の実力テストは、全生徒を対象に実施するテストとは違い、一部の希望する生徒が学校外で受験するものであり、市からの補助金の交付については、様々な要件が必要になると考える。</p> <p>全国的に子育てや教育に係る家計の費用負担が年々大きくなっている実情があることから、今般、こども家庭庁は、一定の所得要件のもと大学受験や模擬試験の費用を補助する制度を導入する旨を公表した。</p> <p>市教育委員会としては、今後、国の動向を注視し、関係部署と連携を図りながら研究していく。</p>
担当課	教育指導課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	中学校では受検(験)生に対してどのような指導を行っているのかを伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>ここ数年の中学校卒業後の進学先は、県内・県外、または公立・私立を問わず、多岐にわたっている状況にある。</p> <p>学校で行う各種テストは、点数や順位のみを重視するのではなく、生徒自らの学習改善に生かすことを目的としている。</p> <p>各中学校では、生徒一人一人の思いや願いに寄り添い、それぞれの希望が叶えられるよう、学習面だけではなく、精神面・健康面のサポートや面接指導を行うなど、生徒が安心して高校受検(験)に臨めるよう支援している。</p>

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	中学校3年生が民間の実力テストを受ける際の受験料について、市として所得制限を要しない補助金の交付を要望する。

質問者(議員名)	豊田 美好 議員
発言事項	2 三社大祭について
発言の要旨	三社大祭の在り方、見直しについて
質問内容	今後の八戸三社大祭の在り方、見直しについて、市の考え方について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>八戸三社大祭は、300年にわたり大切に保存・継承されてきた国の重要無形民俗文化財の祭礼行事である。</p> <p>市としても、社会情勢の変化の中で、山車組の運営経費のほか、山車制作や引き子などにおける担い手不足、山車の制作場所、開催日程など、様々な課題を認識している。</p> <p>教育委員会では、神社行列全体にも焦点を当てた八戸三社大祭の副読本を作成し、小学校4年生全員に配布するなど、興味関心や郷土愛の醸成を図っているほか、教職員や小中学校の児童・生徒に祭りへの参加協力を呼び掛けている。</p>
担当課	観光課、社会教育課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	苫米地 あつ子 議員
発言事項	2 日本語教育支援事業について
発言の要旨	現状と支援員等の増員について
質問内容	日本語教育支援事業の現状と支援員等の増員について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>市教育委員会では、市立小学校及び中学校に在籍している帰国児童生徒及び外国籍児童生徒に対し、本人及び保護者のニーズに応じて日本語教育支援講師を学校へ派遣し、日本語学習の初期学習等を支援することにより学校生活への適応を図ることを目的に、平成21年度から日本語教育支援事業を実施している。</p> <p>日本語教育支援講師は、特定非営利活動法人みちのく国際日本語教育センターに依頼し、漢字の読み書きや日本語の読解、算数、数学や理科の学習等について、支援対象者1人につき原則として年間72時間を限度としつつ、必要に応じて支援時間を追加して支援いただいている。</p> <p>令和5年度は、12月1日時点でパキスタン、フィリピン、ネパール、タイ、ペルー、アメリカ、ベトナムの国籍を持つ小学生10人、中学生5人の計15人が支援を受けており、県内でも支援対象者数が高い水準にあると認識している。</p> <p>現在、講師は9人体制で支援に当たっていただいております。支援時間数に応じて1時間当たり交通費込みで1,300円の謝礼を支給している。</p> <p>成果として、学校からは「日本語の取得のみならず、子どもの心の安定にもつながっている」と聞いている。</p> <p>しかしながら、近年は、外国籍児童生徒等の増加傾向に伴い、支援対象者一人一人への十分な支援を行うために必要な講師の確保が喫緊の課題となっている。</p> <p>今後、市教育委員会としては、講師派遣依頼先への謝礼単価の見直しを図ることで、講師の定着と増員につなげてまいりたいと考えている。</p>
担当課	学校教育課

再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	年度途中で支援の申請があった場合は対応しているか。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>当市の日本語教育支援事業は、申請時期を問わない制度であることから、年度途中で申請があった場合でも支援対象としている。</p> <p>なお、令和5年度は、8人が年度途中で決定者となっており、全体の約半数である。</p>

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	日本語教育支援事業を受けていない特別支援学級に在籍している外国籍児童生徒に対して個別に対応をお願いしたい。 講師の裾野が広がるように、NPO と連携するなどして、広く周知してほしい。

質問者(議員名)	石橋 充志 議員
発言事項	2 防災行政について
発言の要旨	地域防災について ウ 避難所運営について
質問内容	多様な避難者の安全安心を確保するための避難所運営の現状と今後の対応について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 危機管理部長
答弁内容(概要)	<p>居心地の良い避難所の環境づくりは、避難者の心身の不安やストレスを取り除くためにも大切であると認識。</p> <p>避難所は、不特定多数の者が一時的に共同生活を送る場所だが、避難者の性の多様性や年齢、疾病・障がい、国籍等によって、配慮すべき内容は異なるため、あらかじめ様々な視点から検討しておく必要がある。</p> <p>○ しかしながら、避難所によって、避難スペースの広さや資機材の整備状況、避難者の数等が異なる現状では、多様な避難者への配慮が行き届かなくなる場合も想定される。</p> <p>○ このため、引き続き資機材の充実に努めるとともに、避難者に寄り添った避難者最優先の避難所運営が徹底されるよう、職員や自主防災組織に対し、日頃の訓練などの機会を通じて周知していきたい。</p>
担当課	災害対策課（再質問：教育総務課、社会教育課）



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	避難所の居心地への配慮として、学校の体育館や地区公民館に冷房設備を設置する必要があると考えるが、今後の方向性について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>学校の体育館に冷房設備を設置する場合には、建物の大規模な断熱改修が必要となる。また、普通教室等へ冷房設備を設置したことで、学校施設全体の使用可能な電力容量が既に上限に達しており、電源設備の大幅な改修を伴うことも難しい課題となっている。</p> <p>地区公民館については、和室やホールといった貸室の大半に冷房設備がない状況であることから、指定避難所となっている24の地区公民館及び2つの分館を対象に、順次、冷房設備を設置していきたい。</p>

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	石橋 充志 議員
発言事項	2 防災教育について
発言の要旨	地域防災について オ 中学生の防災教育について
質問内容	当市における中学校での防災教育について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>市内各中学校では、学校ごとに策定している学校安全計画に基づき、地震や火災等を想定した避難訓練を年に複数回実施しているほか、地域の自主防災会が主催する、避難所開設を想定した、地域防災訓練等に参加している学校もある。</p> <p>また、市教育委員会が作成した八戸版「防災ノート」を活用し、津波、洪水等の各種最新のハザードマップを確認しながら、各学区内の実情に合わせた、身の守り方や、避難行動及び避難所での生活の仕方、避難所で中学生ができることについて、具体的に指導している。</p> <p>さらに、市教育委員会では、防災教室支援事業により各学校が開催する防災教室に、防災士、消防職員、高等教育教員等を派遣し、災害時に、生徒が主体的に身の安全を守る態度や能力の育成を図っている。</p> <p>また、3月11日を「八戸市防災教育の日」と制定し、東日本大震災の教訓を風化させない取組も行っている。</p> <p>自然災害は、児童生徒等が学校にいる時間帯に限らず、家庭や地域にいる間にも発生する可能性があることから、家庭や地域全体における日頃からの備えが必要とされているほか、災害発生時の対応については、家庭、地域、関係機関等との更なる連携の強化が求められている。</p> <p>市教育委員会としては、中学生が、地域防災力の担い手となるよう、コミュニティ・スクールを核とする、学校、家庭、地域の連携・協働による、防災教育の取組を推進する。</p>
担当課	教育指導課

再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	田名部 裕美 議員
発言事項	1 子どもファーストについて
発言の要旨	(3)ラーケーションの導入について
質問内容	ラーケーションの導入について教育長の所見を伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>ラーケーションとは、「学習」と「休暇」を組み合わせた新しい学び方・休み方であり、学校外での体験や学びの活動を、児童生徒が保護者等と一緒に計画し、平日に行うことができる仕組みであると理解している。</p> <p>児童生徒が保護者と一緒に学ぶ機会を得ることは学校外で貴重な経験を積むことにつながり、保護者にとっても子どもと共通の体験ができることから、教育的にも意義深い取組であると捉えている。</p> <p>当市では、児童生徒が家族とともに地域とふれあいながら伝統芸能を守る機会として、平成30年に毎年2月17日を休業日とし、その日を「えんぶりの日」と定め、地域における体験的な活動を推奨している。</p> <p>また、各学校では、児童生徒がスポーツ、文化活動へ参加するにあたり、活動内容によっては欠席の取扱いとしないなど、校長判断で柔軟に対応している。</p> <p>ラーケーションの導入については、教育的意義を感じる一方で、学校を休む児童生徒が複数いる場合の教育活動への影響、休んだ場合の学習の保障、家庭事情によって不公平感がある、などが懸念されるという考え方もあるようだ。</p> <p>以上のことから、先行事例や他自治体の取組状況を参考としながら、今後研究していく。</p>
担当課	学校教育課



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	

質問者(議員名)	土嶺 直樹 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	(1)こども支援センターにおける不登校の児童生徒の保護者の相談状況について
質問内容	こども支援センターにおける不登校相談の児童生徒数と保護者への相談対応について伺いたい。また、こども支援センター適応指導教室を利用した場合の関係機関との連携状況について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>当センターにおける不登校を主訴とする相談者の数は、10月末現在で小学生50名、中学生85名の計135名となっており、延べ1,345件の相談に対応している。</p> <p>保護者の相談については、公認心理師資格や教員免許等を有する教育相談員が電話相談や来所面談によって対応している。</p> <p>相談内容には、登校できずにいることによる学習の遅れや進学への不安、昼夜が逆転してしまっている子どもへの接し方の悩みなど、様々なものがある。</p> <p>また、不登校状態にある児童生徒の保護者は、子育てに自信がもてず、子どもへの関わり方について不安を抱いていることが多く見受けられる。</p> <p>そのため、保護者の思いに寄り添いながら、頑張ってきたことをねぎらったり、苦しい思いに共感したりすることで、保護者が子育てに対し自信を回復し、不安や負担が軽減されるよう支援をしている。</p> <p>また、教育相談を続けていく中で、児童生徒本人と保護者からの要望があれば、こども支援センター適応指導教室を利用することも可能である。</p> <p>今年度は10月末現在で、19名の中学生が適応指導教室を利用しているところである。</p> <p>関係機関との連携においては、児童生徒の状況や今後の方向性について、在籍する学校と情報交換する機会を設け、双方の役割を確認したうえで心のエネルギーの蓄積や生活リズムの安定などに向けた支援にあたっている。</p> <p>また、高等学校との連絡会を通じて、学校生活についての情報をいただき、支援に役立てている。</p> <p>今後も、児童生徒が在籍する学校や進学予定の高等学校と緊密に連携を図り、不登校状態にある児童生徒とその保護者が一人で悩みを抱え込まないように、それぞれのケースに応じた支援に努める。</p>
担当課	こども支援センター



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	

要望

要望の有無	有 無
発言内容(概要)	学校、関係機関、地域のつながりを生かして、不登校の子どもと保護者のサポートをしてほしい。 1人1台端末を使って子どもの SOS を察知できるようにするなど、早期発見、早期支援ができるシステムを構築してほしい。

質問者(議員名)	土嶺 直樹 議員
発言事項	2 教育行政について
発言の要旨	(2)デジタル採点システムについて
質問内容	デジタル採点システムの導入の経緯と効果、課題について伺いたい。
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	<p>平成31年1月に出された中央教育審議会答申において、採点業務は「教師の業務ではあるが負担軽減が可能な業務」と位置付けられており、ICTの活用による負担軽減が推奨されている。</p> <p>この答申を踏まえて、市教育委員会では、令和2年度に、市内全小・中学校へデジタル採点システムを導入した。</p> <p>本システムは、答案用紙をスキャナーで読み取り、パソコンの画面上に表示された記号や文章による解答を、教員が設問ごとにクリックしながら採点するシステムである。</p> <p>デジタル採点システムを導入したことで、次のような効果が見られている。</p> <p>一つ目は、点数が自動集計されるため、採点の正確性が高まり、検算が不要となる等、採点業務の大幅な負担軽減が図られたことである。</p> <p>また、点数のデータを校務支援システムにそのまま活用できるため、点数入力の作業も不要となった。</p> <p>学校からは、「採点業務にかかる時間が3分の1に減少した」との声も聞かれている。</p> <p>二つ目は、データを活用した学習指導の充実が図られたことである。</p> <p>設問ごとの正答率が自動で集計されるため、結果の分析が容易になり、データを活用した授業改善が進められている。</p> <p>課題としては、中学校においては、定期考査等の時期に使用が集中することによるスキャナーの台数不足が挙げられる。</p> <p>小学校では、授業時間内で採点をしながら指導を同時に行うこともあるため、中学校と比較すると活用が進んでいない状況が挙げられる。</p> <p>市教育委員会では、課題の解決に向けて、研修講座等での具体的な活用事例の提供に努めるとともに、今後も、校務のデジタル化により教職員が働きやすい環境づくりを推進していく。</p>
担当課	総合教育センター



再質問

再質問の有無	有 無
質問内容(概要)	
答弁者	市長 教育長 部長
答弁内容(概要)	
要望	
要望の有無	有 無
発言内容(概要)	